実習報告（基盤実習）

子ども達がしなやかな心を育むためのレジリエンス教育の実践

高井良　春花（子ども支援探究コース　生徒指導・教育相談系）

【探究実習のテーマと設定の理由】

心理学的に捉えるとレジリエンスの定義は「逆境に対する反応としての精神的回復力や自発的治癒力」である。また，レジリエンスには３つの区分があり，１つ目が“回復力としてのレジリエンス”である「しなやかな心」，２つ目が“抵抗力としてのレジリエンス”である「元気な心」，３つ目が“再構成力としてのレジリエンス”である「へこたれない心」である。本研究では，３つのうち特に“回復力としてのレジリエンス”である「しなやかな心」に焦点を当てる。

レジリエンス教育に焦点を当てた理由は２つある。１つは，学部時から参加しているボランティア活動の経験である。ボランティア活動では，様々な背景を持つ子供達の居場所づくり活動を行ってきた。この活動では，子供達の自己肯定感を高めること等を目的とし，子供達は何をやりたいか自分で考え，のびのびと活動をしている姿を見て，学校教育に活かしたいと考えた。子ども達の自己肯定感を高めることの１つとして，活動の中で他者から褒められる，認められる経験を通して，自己理解や自己の見方を広げていくことに繋がってく姿を多く見てきた。新たな自分を発見していくこともレジリエンスの１つである。よって，レジリエンスを高めることで，自己肯定感の向上やボランティアで見てきた何をやりたいか自分で考え，のびのびと活動ができる子ども達の姿に繋がると考える。

もう１つは，子ども達が学校を卒業した後も，生きていく上で必要なスキルを身に付けられるようにしたいと考えるためである。“教師が子供達に働きかけることで子どもの困り感を解決すること”はもちろん大切であるが，“子供達が自分自身で困り感を解決できるようにすること”も大切であると考える。子ども達が，自分自身の力で困難に立ち向かっていくことができる力を身に付けることができれば，その力の１つとして現在の予測困難な時代において，環境が変わってもより良く生きていくことができるのではないかと考える。

以上の理由からレジリエンス教育に注目し，さらに「しなやかな心」に焦点を当てたいと考える。「しなやかな心」は，“大嵐でも，ぽきりと折れてしまわない，やわらかな心”であり，この要素には，楽観性・プラス思考（「なんとかなるさ」「前を向いて進もう」と感じる）や柔軟性（変化に対応し，あいまいさを受け入れる）等のものの見方に関する力が含まれる。ものの見方の選択肢を増やすことで，自己肯定感を高めたり子ども達が自分自身で困難に立ち向かっていったりできるようになると考える。

【探究実習の研究目標】

①実習校の実態把握を行う。
②児童と積極的に関わる中で，児童理解を行う。
③児童のレジリエンススキルについて調査・分析する。

【探究実習の概要】

2022 年 9 月 6 日から原則毎週火曜日に探究実習を行った。また，様々な場面での児童理解を行うために，運動会やフリー参観デー，火曜日以外の曜日にも探究実習を行った。

年月	日（曜日）
2022 年 9 月	6 日(火)，13 日(火)，20 日(火)
2022 年 10 月	11 日(火)，18 日(火)，22 日(土)※運動会，25 日(火)
2022 年 11 月	8 日(火)，15 日(火)，20 日(日)※フリー参観デー，22 日(火)，29 日(火)
2022 年 12 月	6 日(火)，9 日(金)，13 日(火)，20 日(火)
2023 年 1 月	10 日(火)，17 日(火)，24 日(火)，31 日(火)

主な実習内容としては，学習補助や児童理解等の学校生活全般での児童理解や授業の参観等を行った。また，道徳の授業実践を通して，ワークシートの記述や授業中の児童の発言からも児童理解を行った。さらに，配属クラスの児童だけでなく，他クラス・他学年の児童とも多く関わった。

【探究実習の成果と課題】

探究実習の研究目標より，

①実習校の目指す子ども像や実習校全体での取り組み等ついて把握することができた。実習校の先生方からお話を聞かせていただき，通常学級だけでなく特別支援学級や保健室，図書室等様々な場所での取り組みを学ぶ事ができた。また，実習校で行われている取り組みや実習校の特色を踏まえて，研究や実践を行うことが大切であると感じた。今後の課題として，来年度の実践を考える際，これまで行ってきた実態把握を活かして，より実習校の児童の力になる実践を行いたいと考える。

②成果としては，児童の行動や言葉の背景に目を向ける必要性に改めて気づくことが出来た点である。注意しなければならない場面に出会ったときに，その児童は何がきっかけでどうしてその言動に至ったのか児童理解を行うことで児童一人一人にとっての適切な支援・指導に繋がると学んだ。特に配属クラスの児童に関しては，授業の時間だけでなく，昼休みや掃除時間等の学校生活全体で関わったり，運動会やフリー参観デー等の学校行事での姿を見てきたりしたことで児童理解をより深めることができた。また，他クラス・他学年の児童とも幅広く関わらせていただき，各学年や各クラスの雰囲気の違いや多様な児童の背景にも触れることができた。今後の課題は，１人１人の児童理解を大切にしていくことと，全学年と幅広く関わらせていただいた中で，発達段階における様々な違いについて気付くことができたため，発達段階の観点からも深く児童理解を行っていきたい。

③学校生活全体での児童との関わりの中で，ある出来事に対して一方向で捉えてしまい，怒りを感じてしまう姿や他人や自分を傷つけてしまう姿を多く見てきて，改めてレジリエンススキルを高める重要性を感じることができた。ただし課題として，これまで述べたことは教師側から見た児童の様子であり，実際子ども達がどのように考えているのか正確に把握できているわけではない。その為，アンケート調査等を通して，実際に児童はどのように考えているのか，実習校の児童に現状どれだけのレジリエンススキルが身についているのか調査と分析を行う必要があると考える。

以上の成果と課題を踏まえ，今後は，更なる児童理解や児童のレジリエンススキルの分析を行っていく必要があると考える。また，今まで行ってきた実態把握や児童理解を活かした，レジリエンス教育の実践を試みたい。

引用・参考文献

・上島 博(2016). イラスト版子どものレジリエンス―元気・しなやか・へこたれない心を育てる 56 のワーク　合同出版

・宇野 カオリ(2018).　逆境・試練を乗り越える！「レジリエンストレーニング」入門　電波社